

◆ 2021 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 自然環境観察会

24A-03

代表者：代表理事 平井 一男

URL :<https://nature-garden-walk.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

都市化により自然生態系が減少している大宮台地北部に、癒しの生物の回復を目的に、農地や庭の隅に生態補償地（緑のオアシス）を設け、昆虫、クモ、鳥類などの温存、および賦存生物相（バックランド）を解明した。加須の生態園では賦存生物相を調査するために、月例観察会を行った。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ① 緑のオアシス：4月以降、上尾・桶川・久喜・宮代・熊谷に、「緑のオアシス」を設け、ジャコウアゲハなどの昆虫、鳥類の保全と調査を行った（会員延べ40名参加）。
- ② 定例観察会：各地の緑のオアシス（4～12月）および県環境科学国際センター生態園（6～12月）で、昆虫、クモ類、鳥類の観察を行った（同60名参加）。
- ③ 環境学習（オンライン）：2月講習会（約80名参加）、3月標本作製会（約15名参加）。



左：夏の観察調査（加須生態園） 中1：秋の除草・調査（桶川オアシス） 中2：冬の管理・保全（桶川オアシス） 右：オンライン講習（3月県活センター）

3. 活動の成果

- ① 上尾と桶川の3か所の生態補償地（緑のオアシス）に寄主植物（ウマノスズクサ、クスノキなど）および蜜源を植え、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハを定着させた。また、タチヤナギ、ダイオウグミなどを植栽し、テントウムシ、カマキリ類、クモ類を保全した。また上尾では、プラム、ウメなどでメジロ、ジョウビタキ、ツグミ、エナガ、ツミなどを観察。桶川では、上記に加え、ヒバリ、キジ、チョウゲンボウを観察した。
- ② 都市（上尾）と田園（桶川）の「緑のオアシス」の保全候補種選定に関し、都市では、ジャコウアゲハ、コシアキトンボなど74種、農村ではジャコウアゲハ、アオスジアゲハなど70種を選定した。2021年度の観察数は、暖冬年の2020年に比べ、減少した。
- ③ 生態園のカラムシでは、アカタテハが珍しく多発した。他の生き物のチョウトンボ、イトトンボ、バッタ類、クモ類については、暖冬年の2020年より少発生であった。
- ④ 成果は、2～3月の昆虫研究会、NPO広報誌、オンライン講習会などで公表した。

4. 今後に残された課題

- ① 緑のオアシスの植栽、除草、寄主蜜源植物の肥培管理を続け、生物多様性を安定させる。
- ② 生態園と各オアシスでの生き物調査、データベース化・公開、環境学習を継続する。